

# 三宅島ふるさとだより

No. 32

発行日：平成24年7月1日 三宅島ふるさと再生ネットワーク東京事務局  
住所：〒173-0005 東京都板橋区仲宿25-6 あすなろ福祉会内 TEL 03(3963)5678 Fax 03(3963)5697

先日のあおぞら市には、多くの方が足を運んでくださいました。感謝申し上げます。

都 政 新 報 2012年(平成24年)3月6日(火曜日)

## 透明な村政運営へ

2月12日に投開票された三宅村長選は、新人で元教育長の櫻田昭正氏(73)が現職や元議長を破り、初当選を果たした。3人の候補者に政策面で大きな違いはなく、三宅島特有の地区間の対立構造が選挙に大きく影響したと見られる。2000年の噴火からの復興に苦しみ中、新たな課題に浮上した空路問題などに対し、村のかじ取り役としてどう向き合うのか。櫻田氏に聞いた。



### 三宅村長・櫻田昭正氏に聞く

さくらだ・あきまさ＝1939年生まれ。日本大学文理学部卒。村立坪田中学校長、三宅中学校長などを経て、06年から今年1月まで村教育長を務めた。柔道は6段の腕前。趣味は海で泳いだり、山を散策したりとアウトドア派。座右の銘は「精励恪勤」。2女が独立し、妻と2人暮らし。娘婿の1人は某週刊少年漫画雑誌に連載する売れっ子漫画家という。

援は少なくなるだろう。村民と行政が一緒に汗をかき、痛みを分かち合わなければならない。

— 知事肝煎りのバイクレースについては、知事が変わればどうなるかという話も耳にするが、昨年は島から3人が出場し、地元にも浸透している。さらに住民から親しまれるものにし、関連イベントを充実させ、バイクアイランドとして観光につなげたい。

— 13年3月に就航中の航空機が退役を迎え、4月以降の空路アクセスが課題です。

— 滑走路の延長という話があるが、冬場は横殴りの風を受ける位置で、延長しても就航率は改善されないだろう。新空港整備は、滑走路延長の500億円よりもさらに予算がかかる。長期的には検討が必要だが、今、どうすべきかも大切。アイディアはあるが、今は公表する段階にない。都もPPTを作って検討しており、連携して進めたい。

— 4年間の任期で大きく進展しなかった。13年 知の高齢者から「イベン 度中に実現させたい。医療スタッフの確保が最大 集中し過ぎていて」とい

まは人材育成。村づくりは人づくりからだ。の課題だが、村民の切なる願いに応えたい。

— 地区間対立について、時間をかかると。パ

映させた透明な村政運営を進めたい。例えば、島の診療所では人工透析が受けられない。改善を求め、1千人を超える村民の署名が集まったが、全

島は、選挙では、合併前を半ばです。

— 村民2776人の4割 地産地消に力を入れ、生産性を高めたい。

— 国や都との人脈が不安視されています。

— 私は全く心配していません。ひたむきに復興に取

かまた みのる  
鎌田 實さん

### 諏訪中央病院名誉院長

# 人間発見

地域医療への夢を抱いて赴任した諏訪中央病院。信頼できるスタッフに囲まれ充実した環境だったが、訪れる患者は少なかった。

着任当時の諏訪中央病院は医師や看護師などスタッフは優秀なのに、なぜか患者があまり来ない病院でした。「鎌田、おまえのひびがよくない」と言われたこともありました。がん患者の診察で「親切に診ていただいて、本当にありがとうございます」と感謝の言葉をもらったと思ったり、病室に申し訳ありませんが、手術は他の病院でお願いすることになりました」といふ書き置きを目にしたこともありました。

「温かい病院」を目指して地域の医療活動に情熱を注いだ



「温かい病院」を目指して地域の医療活動に情熱を注いだ

「訪問看護」を始める。医師が各家庭を検診で回すのも大事ですが、看護師の訪問が何より重要だということも分かります。そこで生まれたのが「訪問看護」でした。

## 来院患者少なく、ボランティアで地域医療

### 各家庭回り「訪問看護」「デイケア」発案

#### 39歳で院長に、病院玄関で毎朝あいさつ

着任当時の諏訪中央病院は医師や看護師などスタッフは優秀なのに、なぜか患者があまり来ない病院でした。「鎌田、おまえのひびがよくない」と言われたこともありました。がん患者の診察で「親切に診ていただいて、本当にありがとうございます」と感謝の言葉をもらったと思ったり、病室に申し訳ありませんが、手術は他の病院でお願いすることになりました」といふ書き置きを目にしたこともありました。

「温かい病院」を目指して地域の医療活動に情熱を注いだ

着任当時の諏訪中央病院は医師や看護師などスタッフは優秀なのに、なぜか患者があまり来ない病院でした。「鎌田、おまえのひびがよくない」と言われたこともありました。がん患者の診察で「親切に診ていただいて、本当にありがとうございます」と感謝の言葉をもらったと思ったり、病室に申し訳ありませんが、手術は他の病院でお願いすることになりました」といふ書き置きを目にしたこともありました。

「温かい病院」を目指して地域の医療活動に情熱を注いだ

着任当時の諏訪中央病院は医師や看護師などスタッフは優秀なのに、なぜか患者があまり来ない病院でした。「鎌田、おまえのひびがよくない」と言われたこともありました。がん患者の診察で「親切に診ていただいて、本当にありがとうございます」と感謝の言葉をもらったと思ったり、病室に申し訳ありませんが、手術は他の病院でお願いすることになりました」といふ書き置きを目にしたこともありました。

「温かい病院」を目指して地域の医療活動に情熱を注いだ

着任当時の諏訪中央病院は医師や看護師などスタッフは優秀なのに、なぜか患者があまり来ない病院でした。「鎌田、おまえのひびがよくない」と言われたこともありました。がん患者の診察で「親切に診ていただいて、本当にありがとうございます」と感謝の言葉をもらったと思ったり、病室に申し訳ありませんが、手術は他の病院でお願いすることになりました」といふ書き置きを目にしたこともありました。

「温かい病院」を目指して地域の医療活動に情熱を注いだ

「温かい病院」を目指して地域の医療活動に情熱を注いだ

「温かい病院」を目指して地域の医療活動に情熱を注いだ

# ぬくもりもある医療貫いて

③

「温かい病院」を目指して地域の医療活動に情熱を注いだ

(聞き手は 榎木誠)